

世界ではリサイクルが進んでいる

アメリカ初。バーモント州が生ごみの堆肥化を義務に

7月1日, 2020

アメリカ・バーモント州は、2012年にユニバーサルリサイクル法「ACT 148」が制定され、準備期間を経て2020年7月1日から適用されました。全米で初めて「生ごみ」をごみ箱に捨てることを禁止した州になりました。

使い捨てプラスチックのストローやビニール袋、使い捨て容器の提供中止も開始され、生ごみの堆肥化が義務とされました。堆肥化できない住民は業者に回収して貰います。業者が引き取りに来るまで家の中に密閉容器に入れて置いておく必要があります。



対象となる生ごみは、野菜の皮や種、卵のから、コーヒーかす、茶殻、そして食べ残しなど。同州は、家庭でのコンポストの設置のほか、リサイクル業者に食品ロスを送ることを推奨している。また、政府のウェブサイトにて市民が具体的にどう行動すればいいのかを示すガイダンスを用意するほか、堆肥化について学ぶワークショップなども実施し、本気でごみを減らすよう取り組んでいる。

バーモント州ではゴミ箱のステーションがあり、住民はリサイクルできる物と廃棄するものに分けていますが、廃棄するものは埋め立てされています。

家庭ごみのうち生ごみが約4分の1を占める。また、レストランやカフェといった飲食店から出される廃棄物では、食品ごみが全体のごみの半分以上にもなるという。もしこれらの食品ごみが埋立地に送られた場合、酸素がない状態で分解されることとなるため、CO2よりも84倍も強力な温室効果ガスであるメタンが20年間にわたり、発生し続ける。これらを捨てずに堆肥化することは、重要な気候変動対策なのだ。

今回の取り組みにより、州全体の食品リサイクル・堆肥化率は、30%から60%に向上する見込みで、成功すればアメリカ国内で最も環境対策が進んだ地域の仲間入りを果たします。

カナダ国境に面し、米国で6番目に大きな淡水湖「シャンプレーン湖」のあるバーモント州。美しい自然に囲まれ、環境への意識が高い地域ならではのダイナミックな取り組みだ。

【参照サイト】 Department of Environmental Conservation, Vermont